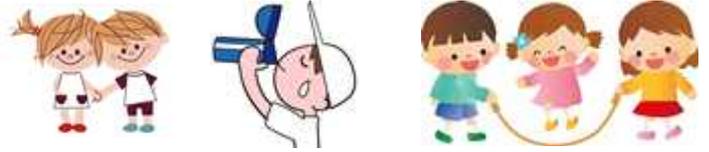


# のびのび



2020年度校長室だより 第5号 令和2年8月31日

湯田小学校のキャッチフレーズ：あしたも会おうね 温かい学校 ～ 学び合い ～

2020年度チャレンジ目標：湯田小ABC 合い言葉：やさしい言葉がひびきあう

## 2学期の意気込み

校長 伊藤 豊

8月の益明けに、教室で児童が学習をする。このような経験は誰もなかったのですが、8月17日から2学期を始めています。教室にエアコンが設置されてはいますが、外気温が高く、感染症対策のために窓を少し開けて換気をしながらの冷房は効きがよくありません。子供たちも意欲をもって登校しているので、その熱気の強さのせいがあるかもしれません。連日の報道を見る限り、新型コロナウイルス感染の拡大はなかなか収まりそうにありません。県内他市の小学生が感染したと聞けば、本市や本校も他人事ではないと緊張感は高まりますが、用心していても、人と人が行き交えば感染リスクも高まり、知らずに感染者がいる所へ集えば、やはり感染の広がりには免れないようです。これまでの感染予防を引き続き根気よく行うしかありません。

さて、こんな状況下ですが、2学期も学校生活を充実させて行かなければなりません。基本は、感染拡大防止策を可能な方法で施しながら、できるだけ普段どおりの学校生活、教育活動を進めていくことだと考えています。

ただ、約670名のがんばり屋さんばかりの活力ある本校だけに、こうしたコロナ禍においては3密の回避に本当に苦労します。既にご案内したように、9月8日の参観日も学級により保護者の皆様にご来校いただく時間帯を分けています。3密回避に少しでもご協力いただきながら、児童の学ぶ姿、教員の教え導く姿をご覧いただけるものと期待しています。

また、6年生の修学旅行については、下関市方面日帰り日程に、5年生の宿泊学習については、親子鍛錬遠足という方法に変更しました。共に宿泊先での入浴や就寝時における感染症拡大防止策について万全とは言い切れなかったため、本年度は内容を変更して実施することにしました。5月に実施できなかった運動会も、湯田地区の大きな行事である「湯田地区総合避難訓練ふれあい安心安全フェスタ」や「湯田地区ふるさとまつり」と同様に、本校の規模では、参加者の3密を回避する有効な手立てがないことから、従来の形態による会は実施いたしません。

しかし、子供たちが運動を通じて仲間と力を合わせる喜びや、互いに切磋琢磨しながら伸びていく機会として、学年毎に種目を決めたクラスマッチを今後体育の学習の中で実施する予定にしています。その他、1学期に控えていた学習内容に関しても、対策を施しながら少しずつ開始します。音楽では、歌唱、リコーダーや鍵盤ハーモニカを用いた演奏を控えてきました。家庭科では、調理実習を控えてきました。これらは、文科省が示した「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式～」において「感染症対策を講じてもおお感染のリスクが高い学習活動」として例示されています。3密を避けながらこうした活動を行うには非常に苦労をします。これまでも、市内の全小学校とも情報共有をしながら、山口市教育委員会の指導に基づいて指導方法の検討を行ってきました。指導に関する最新の情報を確認しつつ、教室の換気やこまめな手洗い、飛沫が飛ばないように児童の座席の向きや実施時間を工夫して徐々に学習を再開して行きたいと思えます。学校で活動の制限が生じる分、例えば、演奏練習や調理の経験の一部をご家庭にてお願いすることもあるかもしれません。児童の実践力を育てるために、引き続きご理解とご協力を賜りたいと思えます。



## 文部科学大臣メッセージ

先般、報道でも取り上げられたように、文部科学大臣が、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて、児童・教職員・保護者等に対してメッセージを表明しました。大きな目的は、感染者に対する誤った誤解や不当な差別が生じないようにすることです。以下にメッセージの一部（他に児童生徒向け、学校関係者向けがあります。）を掲載します。児童を取り巻く私たち大人が先ずはしっかりとした構えをもちたいものだと思います。

### 保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならでの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月  
文部科学大臣 萩生田 光一